

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-141	15-046 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Abstinence and current or former alcohol use as predictors of disability retirement in Finland. フィンランドでの身体障害による退職を予測するための禁酒と飲酒状態		
執筆者		
Kaila-Kangas L, Kivekäs T, Laitinen J, Koskinen A, Härkänen T, Hirvonen L, Leino-Arjas P.		
掲載誌		
Scand J Public Health. 2015 Jun;43(4):373-80. doi: 10.1177/1403494815575194.		
キーワード		PMID
禁酒、身体障害による退職、アルコール使用障害、精神疾患		25743875
要 旨		
目的： 禁酒は身体障害による退職（DR）の危険を増加させるとの過去の報告がある。禁酒者の中には以前の飲酒状態が問題で現在禁酒している人や精神疾患を罹患したことが原因で健康状態が悪くなり禁酒している人なども含まれる。そこで、アルコール使用障害や精神疾患を含む飲酒状態の違いによって、DR と関連が見られるかフィンランドの一般代表集団を用いて解析を行った。		
方法： ベースライン調査時で 30 から 55 歳の労働者 3,621 人を対象とした前向き集団ベース研究で、障害年金のデータは 2000 年から 2011 年のものを国の年金記録から取得した。長期禁酒者、過去の飲酒者、アルコール使用障害者、および現在飲酒者の中で、DR をしたすべての原因と精神疾患を調べ、さらに 1 週間あたりの飲酒量によりこれら対象者を分類した。解析には Cox 回帰分析を用いた。		
結果： 長期禁酒や飲酒量と DR に関連は見られなかった。すべての交絡を調整しても、軽度飲酒者と比較して、過去飲酒者は精神疾患による DR のハザード比が 2.67 倍高かった。アルコール使用障害者の全ての原因による DR のハザード比は 2.17 倍高く、さらに精神疾患が原因による DR のハザード比は 4.04 倍高かった。		
結論： 長期の禁酒者では DR を予測できなかった。アルコール使用障害か以前の飲酒者は精神疾患が原因により仕事ができなくなる割合は軽度飲酒者より 2 倍高かった。以上のことから、これらの人々への職業サポートが DR を防ぐために重要である。		